

(2) 介護等体験を終えて 〈4〉

覚えたての指文字でのコミュニケーション体験も

文学部 3年 K.K

まず、老人デイサービスセンターでの体験について、初めの1日はとても疲れました。「何をしゃべって良いのかわからない」という気持ちでいっぱいになり、怖くなりました。ですが、自ら積極的に話し掛けなければ駄目ということは分かっていたので、できるだけ話し掛けました。すると、どの方もニコリと笑い、様々なお話をしてくださいました。オセロの好きな方や将棋の好きな方がおられ、とても楽しい時間を過ごすことができました。また「コミュニケーションの取り方が難しい、話題をつくる事がなかなかできない」とセンターの職員の方に相談したところ、私の好きな習字セットを準備してください、おじいちゃんやおばあちゃんと有意義な時間を過ごせ、センターの職員の方にはとても感謝しています。このことから自分に特技や趣味など人に見せることのできるものがほしい、身に付けたいと強く思いました。この体験を終え、私は初めこの体験を甘く見ていたなと思い反省しました。1人ひとりのことを理解することは決して簡単なことではないのに、様々な方と話すことができ、また職員の方々の働きぶりを見てこの体験ができてよかったと心から言えます。

次にろう学校で体験させていただきました。初日に聴覚障害とは、という話を聞き、指文字を習いました。全くの初めてだったのでとてもドキドキしました。校内を歩く時生徒とすれ違ふと必ず、挨拶をしてくれ、自分も負けてられないなと思いました。また、授業体験で6年生(高校3年生)と一緒に体育の授

業を受けた時、皆が声を掛けてくれ、ニコリ笑って、とても優しくしてくれて、とても助かりました。駅伝大会だったのですが、皆とても一生懸命で、応援している私もすっかり力んでしまいました。指文字は覚えたてでもゆっくりしかできませんでしたが、それでも皆待ってくれて、コミュニケーションをとることができました。今回2つの体験を通して様々なコミュニケーションのとり方があるということを印象深く学びました。